



# 長野県看護大学学報



## 平成29年度 国際看護実習

この実習は、本学とサモア国立大学との学生交流事業に基づき、双方の国を隔年毎に訪問し、各校の実習生が共同で臨地実習を行っています。本年度は、サモア国立大学の学生、Pelevita TapuaiさんとElia Amituanaiさんの2名を本学に受け入れ実習しました。

サモア国立大学からの2名の留学生と本学の4名からなるチームは、早速1・2年生有志の学生や、昨年サモアに渡航した4年生に温かく迎え入れられ、初日から和やかな交流の輪が広がりました。学生企画の看護技術の交換会では、原理・原則は共通しながらも、お互いのこだわりが異なることがわかりました。技術の根拠を説明でき実践できる力のほかにも、必要な事前学習や体調・時間管理など、領域実習に向けて大切なことを学びました。

基礎看護学分野准教授 宮越 幸代

### サモア国立大学実習生からのメッセージ

本当に懐かしい私たちのクラスメイト、ボランティアの皆さん、最初はことばの違いで意思疎通に苦しみつつ、私たちは最終的には通じ合えていたと思います！ベストを尽くして易しい言葉に言い換えたり、私たちの体調や要求に配慮してくれたり、至れり尽くせりの配慮、それこそが大きな学びであったと本当に感謝しています。そして今度は、私たちの国サモアで会えることを楽しみにしています。

Pelevita Tapuaiさん、Elia Amituanaiさん

(訳：宮越 幸代)



# 平成29年度 国際看護実習報告

留学生二人と過ごした2週間は、つらいことも楽しいこともたくさんある密度の濃い時間であったと思います。文化の違いや、看護の技術の違い、また使用する言語も全く異なる中での実習では戸惑うことも多く、さらに自分自身の甘さや課題も多く見つかりました。これからの実習にこの経験が生かせれば良いと思います。

落合 香葉さん (看護学部3年生)

この実習を通してサモアと日本との看護の違いや共通点について、技術交換やディスカッションを通じ、互いに理解を深めることができたのではないかと思います。また一方で、改めて自身や実習グループの課題をいくつか痛感することがあったため今後の領域別実習や学習に今回の学びを活かしていきたいと考えています。

小林 美智さん (看護学部3年生)

国際看護実習では、メンバーと様々な課題に取り組む中で、相手を尊重しながら、自分の考えを伝えることの難しさを実感しました。今後、国内外を問わず、他職種が連携する「チーム医療」が基盤となると考えられることから、意識して習得していきたいテーマであると感じています。

竹村 かおるさん (看護学部3年生)

国際看護実習を履修して、人として成長するために必要な気づきを得ることができました。私は、実習を通し、今まで目を背けてきた弱い自分、出来ない自分の姿があることを認識しました。それらは実習中に克服できたわけではありませんが、弱い自分から逃げずに立ち向かう機会となり、克服の一步を踏み出せたと思います。このような気づきを得ることが出来たのもご支援くださった皆様のお陰です。本当にありがとうございました。

藤本 恭子さん (看護学部3年生)



## 新任教職員紹介

愛知県名古屋市から来ました。まだ長野県での生活に不慣れですが、自然豊かな駒ヶ根での生活を楽しみにしています。皆さんと一緒に看護をより深く、楽しく学んでいきたいと思っています。どうぞ、よろしくお願いします。

井本 英津子  
(基礎看護学分野助手)

これまで駒ヶ根の総合病院・保健センター・精神科病院で看護師や介護支援専門員として勤務をしていました。新人教員ですが臨床は長いので、実習先病院で迷ったり困ったりしていることの相談にはのれると思います。学生のみなさんお待ちしていますね。

松田 美幸  
(成人看護学分野助教)

地元に戻って2年あまりですが、駒ヶ根の美しい自然に魅了されながら日々過ごしています。今までの臨床経験を生かして、学生のみなさんと看護についてともに考え、ともに学んでいきたいと思っています。よろしくお願いします。

長谷川 志保 (成人看護学分野助手)



左から、松澤一真 (教務・学生課)、星幸江 (精神看護学分野助教)、長谷川志保 (成人看護学分野助手)、井本英津子 (基礎看護学分野助手)、松田美幸 (成人看護学分野助教)



# 教員の研究活動紹介

## 人類進化ベッドの紹介

座馬 耕一郎 (社会・経済学分野准教授)

現在、教育研究棟3階にある楕円の揺れる物体、これが人類進化ベッドです。このベッドの原型は、アフリカの森で暮らすチンパンジーのベッド。木の上に作られるベッドは、太い枝を組んだその上に小枝が幾重にも敷きつめられており、頑丈な土台とふかふかなマットの二重構造をしています。そのベッドの寝心地はというと、調査の合間に寝てみたところ、今までに感じたことのない心地よさでした。枝葉のマットが体をやわらかく包みこみ、木のやさしい揺れも眠りを誘う、そんなベッドだったのです。その寝心地を再現したのがこのベッド。ではなぜ「人類進化」ベッドなのか。じつは人類の進化の長い歴史の中では、二足歩行を始めた初期人類も、木の上のベッドで眠っていたと考えられています。大昔の人類が眠っていたベッド、そんな思いで名付けました。今後はこのベッドの寝心地の検証や、多方面での利用可能性について探っていきたいと考えています。



人類進化ベッド



チンパンジーの作ったベッド



ベッドを使っているチンパンジー



初めまして。9月より精神看護学分野に着任した星幸江と申します。北海道から移住し早3ヶ月、皆さまの温かいお力添えによりこちらでの生活にも慣れてきました。

また、新鮮な野菜で健康的な食生活を満喫しております。先日、人生初の授業を無事終え、知的好奇心旺盛な学生との出会いに、教育へのモチベーションが高まりました。今後ともご支援、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

星 幸江 (精神看護学分野助教)

こんにちは。6月から教務・学生課で勤務している松澤一真と申します。皆さんのサポートができるよう毎日頑張っていますので、何かありましたら気軽に声をかけてください。3月までの短い期間ですがよろしくお願い致します。

松澤 一真 (教務・学生課)



この度、学生支援員として着任致しました。駒ヶ根の美しい自然環境のもと、学生の皆さんが充実した学生生活を送れるよう支援をしていきたいと思っております。

どうぞよろしくお願い致します。

小松 史枝 (学生支援員)



小松史枝 (学生支援員)

# 学生活動報告

## 鈴風祭開催報告

わたしは今年度の鈴風祭の運営に実行委員長として関わることができて大変うれしく思います。運営していく中で苦労したことは数多くありますが、みなさんに支えられ最後までやり遂げることができました。みなさんにとって今年度の鈴風祭が心に残るものになっていたら幸いです。みなさん本当にありがとうございました。

宇佐美 朱理さん（鈴風祭 実行委員長）



左から2番目が宇佐美朱理さん



左が金子夢翔さん

今年は例年とは異なり、学生主体の学祭にしようとして一般公開の1日前に運動会を企画しました。競技は借り物競争、大縄、障害物競争、学年対抗リレーの4種目を行いました。ルール決めや人数調整、準備運営はとても大変でした。しかし、いざ運動会をやってみるとみんな「すごく楽しかった」と言ってくれました。やってよかったと思いました。新しいことをするのは大変だったけど今後、継続されていったら嬉しいです。

金子 夢翔さん（鈴風祭 実行委員）

僕達3年男子一同は、今年も学祭での模擬店に参加させて頂きました。去年に引き続き、タコ焼きを『男魂焼き』という当て字で販売しました。最終的に、模擬店の人気集計では第1位に選ばれました。僕達の努力も報われました。来年も学内外問わず、多くの方々が参加してくれることを願っています。

宮下 純兵さん（看護学部3年生）



## 「いなん100キロ徒歩の旅」ボランティア参加報告



いなん100キロ徒歩の旅とは、4～6年の小学生の子たちと夏休みに4泊5日でこのいなん地域100キロを歩くというものです。その期間ずっと子ども達と過ごし、一緒に歩きました。4泊5日間親御さんから子ども達の命を預かるので、当日までの研修も長く学業との両立も難しかったですが、初日から最終日まで子ども達の成長を間近で見ることができ、自分にとっても良い経験をさせてもらいました。ですので、来年の1年生にも是非参加して欲しいと思います。 佐伯 桃香さん（看護学部1年）

今年は学生スタッフがとても少なく厳しい中での実施でした。その中で、地域スタッフ、学生スタッフと協力しながら、研修、テスト歩行、そして本番を無事終えられたことには、大きな達成感がありました。一緒に歩いた大学の仲間とは今でも深い関わりがあります。困難を一緒に乗り越えたという絆は本当に強いものだと感じています。この活動を今後も続けていくために、来年に引き継いで行きたいと思っています。

山上 奈々さん  
（看護学部1年）





# 学生実習報告

## 基礎看護実習Ⅱ



実際の患者さんの状況は日に日に変化していくことに、ペーパーペイシエントとは違うと痛感しました。戸惑いつつも、カンファレンスを通して自分の問題を

解決したり、先生やグループメンバーに支えてもらい実習を終えました。

今回の実習では自分の知識不足、技術不足なところが浮き彫りとなりました。しかし、臨床での看護に触れたことによって看護について興味が湧き、もっと看護を学びたいと思える実習でした。

大里 支乃さん（看護学部2年生）



今回、患者を受け持つ初めての实習でした。ペーパーペイシエントとは異なり患者との関わりの中で情報を収集し、アセスメントをすることで苦労し

ました。「知識が頭にあったとしてもそれを適切に活用できなければ意味がない」、このことを実習を通して痛感しました。今回の実習を経験し、より学習への意欲が高まりました。知識をインプットするだけでなく、日々共に過ごしている友人に協力してもらいアウトプットする機会をつくり、知識の定着と活用をできるように研鑽を積むよう決意しました。とても有意義な実習となりました。

大島 武留さん（看護学部2年生）

## 看護統合実習

統合実習では、初めて複数の患者さんを受け持つということで戸惑うことが多くありましたが、その中で安全で確かな医療を提供するためには情報共有を密に行い、医療チームとして看護を展開していくことが重要であることを改めて感じました。限られた資源の中で質の高い看護を実践していくための組織の役割というものを学ぶことができ、自分自身が理想とする看護を考える機会になりました。

石塚 しおんさん（看護学部4年生）

統合実習では、看護を組織的に提供するための病院や病棟単位での取り組みを知り、よりよい看護を提供するために個人としてどのように行動することでチームに貢献できるかを考えるきっかけとなる実習となりました。また、複数受け持ちでは時間配分や優先順位を考えることや臨機応変に対応することの困難さを体感しました。その中で、情報共有が安全や質の向上などに繋がっており、重要であることを学ぶことができました。

山川 真菜さん（看護学部4年生）





# フォトかんごだい

平成29年6月～平成29年12月



6月1日  
平成29年度認定看護師教育課程開講式



6月3日 ふれあい花壇の定植



6月27日  
1年生 スタートアップセミナー発表会



6月27日 地震体験車の体験



7月29日 オープンキャンパス



9月9日  
平成28年度卒業生 集まれ! 企画



9月11日  
ハラスメント防止研修会



9月16日 公開講座  
伊澤敏先生(佐久総合病院統括院長)  
「佐久総合病院と今後の地域医療」



10月18日  
1年生 生命科学演習の様子



11月15日  
「JICA草の根技術協力事業」  
ネパール・ポカラ市の研修員の来学



11月17日 防災訓練



12月20日  
地域・在宅看護学分野卒業研究発表会



# 大学の活動紹介：看護実践国際研究センター

## 看護ユニフィケーションチームの活動

小児看護学分野教授 内田 雅代



事例研究研修会講義の様子（伊藤祐紀子教授）

平成29年度は看護ユニフィケーション事業開始3年目となり、協定締結5施設（伊那中央病院、昭和伊南総合病院、飯田市立病院、こころの医療センター駒ヶ根、伊那神経科病院）の看護職者を対象にした（1）「事例研究研修会」（8/31）が終了、（2）「看護過程研修会」の開催（9/21、11/8、1/24の3回連続）を継続中、さらに、締結施設と大学双方の職員を対象にした（3）「ユニフィケーション相互研修」（3/23）を開催予定です。

## 子どもと家族への支援プロジェクト

小児看護学分野准教授 竹内 幸江

アレルギーをもつ子どもの親の会「たんぽぽの会」への支援を行っています。この会は、ほぼ月に1回定例会を行い、会員同士の親睦を深め、情報交換や勉強会を通して新しい知見の提供などを行っています。そして、年に1回本学と共同で「アレルギー疾患をもつ子どもと親と支援者の集まり」を開催しています。19回目となる今年度は11月25日に開催し、会員代表者、小児科医師、看護教員による講演会を実施しました。



「アレルギー疾患をもつ子どもと親と支援者の集まり」での講演（内田雅代教授）

## 出前講座チームの活動について

英語・英米文化学分野教授 西垣内 磨留美

今年度10月より、長野県看護大学出前講座がスタートしました。この制度は、県民の皆様のご要望にお応えし、本学の教員が各々の専門性を活かした講座を学外で実施することにより学習機会を提供して、地域に貢献することを目的としています。まだ始まったばかりですが、4件の希望があり、3件はすでに開催されて、地域の皆様に喜んでいただきました。今後も、皆様のご期待に添えるよう、努力してまいります。どうぞこの制度をご活用ください。



「出前講座」の様子（宮越幸代准教授）

## 同窓会(鈴風会)

### 新会長就任のご挨拶

今年度より会長を務めさせていただきます、学部11回生  
今村明文と申します。私事ではありますが、一昨年にキャリア  
アップのために半年ほど大学で授業を受ける機会がありま  
した。4年間通った母校で再度教育を受けるのは懐かしい気  
持ちと安心感・親近感があり、勉強をするには非常にいい環  
境であり、母校の大切さを実感いたしました。同窓生の母校  
との繋がりの一助となれるように努力していく所存です。

長野県看護大学同窓会 鈴風会 会長 今村 明文



鈴風祭で展示した卒業生メッセージ



# INFORMATION



### 清水嘉子学長 退任記念講演

「産み育てることに目を向けて」

日時 平成30年2月17日(土) 13:30～15:00 (受付開始 13:00)

会場 長野県看護大学 大講義室 (教育研究棟3階)

### 内田雅代教授(小児看護学分野)退任記念講演

「子どもや家族とともに創造する看護」を目指して  
— 小児看護の実践・教育・研究活動から学んだこと —

日時 平成30年3月3日(土) 13:30～15:00 (受付開始 13:00)

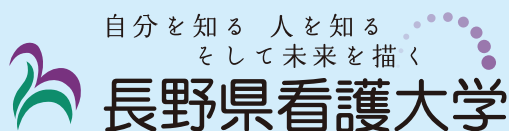
会場 長野県看護大学 大講義室 (教育研究棟3階)

### 第14回 長野県看護大学研究集会

日時 平成30年3月19日(月) 9:00～16:00

会場 長野県看護大学 大講義室 (教育研究棟3階)ほか

対象 本学教職員、学生、看護職者ほか



〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂1694 TEL 0265-81-5100 <http://www.nagano-nurs.ac.jp/>



長野県看護大学学報  
No.45 (平成30年1月)

編集・発行  
長野県看護大学広報・交流委員会





# 大学院だより

## vol.5

### ■ 遠隔講義について

遠隔講義は、本学が都市圏（東京都、名古屋市等）から遠く交通の便も良くないこと、近年大学院志願者が定員（1 学年：博士前期課程 16 名、博士後期課程 4 名）を下回っていること等から、6 年前から導入を始めました。このシステムは、日本学術振興会科学研究費補助金を得て開発と普及に取り組んでいる、本学独自の最先端遠隔ケアシステム「サラス（Salus）」の会議機能を講義用に特化して開発したものです。そのために、「サラス」本来の簡便・高画質高音質・高セキュリティ・高機能低価格等を具備しており、大学院生や研究生が職場や自宅、出張先から安全・容易に安心して WiFi 接続して教員の指導を受けたり授業に参加することが出来ます。遠隔講義による、就労、育児や介護に従事している受講生のメリットは計り知れません。今後、遠隔講義を増やしたり都市圏にサテライト・キャンパスを設置するなどを通して、大学院志願者の増加や本学の質の高い大学院教育の普及に努めたいと思います。

北山 秋雄（里山・遠隔看護学分野教授）



大学院博士前期課程授業科目「コミュニティ・ディベロップメント論特講」長 純一先生（石巻市立病院開成仮設診療所所長、東北大学臨床教授）による遠隔講義

### ■ 院生の紹介



通訳の方とともに

私は、トンガ王国での JICA ボランティアの活動をとおし、多くの貴重な経験を与えてくれた人々の役に立つ研究がしたいと思い、この国が抱える健康問題に取り組んでいます。8 月にトンガに渡り、フィールド調査を実施しました。各家庭を訪問し、教会や集会所に出向いての調査でしたが、トラブルの連続。そんな時も旧知の仲間が助けてくれました。改めて人々の温かさを感じると共に、フィールド調査の難しさを学ぶ機会となりました。今後は得られた結果から、トンガの人々の健康に寄与する「健康資源」を明らかにできればと思います。

田村 かおりさん(大学院博士前期課程2年生)

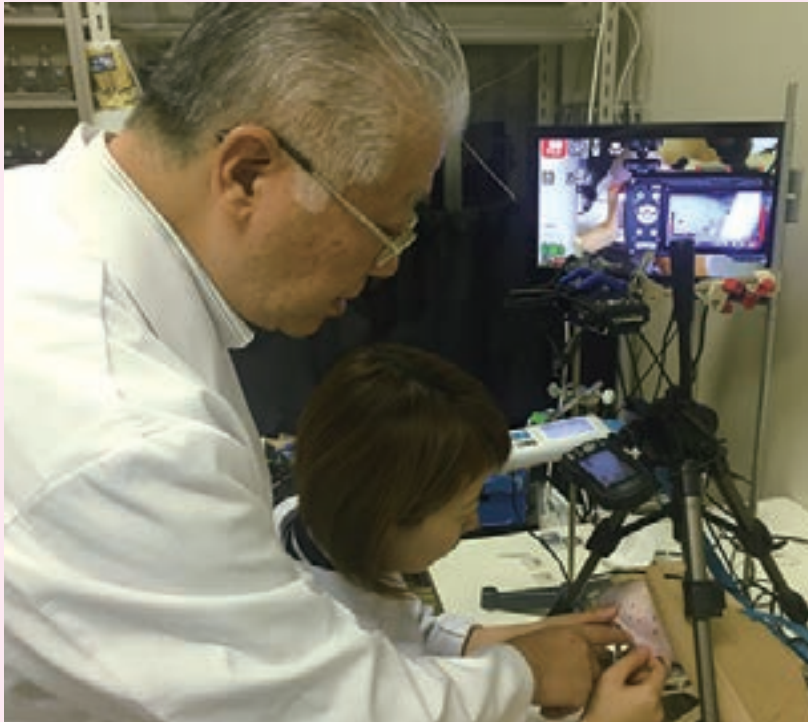


質問紙調査に記入して下さるトンガの方々



研究参加のお礼にカヴァを給仕する田村さん

## ■ 教員の研究紹介



「ガラス板圧診法」による早期診断のための至適圧力の測定実験

褥瘡は難治性皮膚潰瘍で、いったん発症すると患者の QOL の低下は言うまでもなく治療にも莫大な医療費が必要で、その早期治療には早期診断が必要不可欠となっています。早期診断には超音波など高価な機器類を用いることもありますが、最も簡易な方法として「ガラス板圧診法」が用いられています。しかし、この圧診法は圧迫の程度を決めるのは難しいため、診断の精度を妨げているのが現状です。我々の研究室では、本学里山・遠隔看護学分野の協力を得て精密測定機器を用いた早期診断における至適圧力の程度を明らかにし、さらに東京理科大学と共同して臨床現場で利用可能な簡便かつ高精度、低コストの先端診断装置の開発に力を注いでいます。

喬 炎 (病態機能学分野教授)

## ■ 教員の研究紹介

東南アジアやアフリカの発展途上国を主なフィールドとして疫学研究を行っています。近年は従来の感染症に加え、Non- Communicable Disease (NCD) も重要なテーマとなっており、マラリアからメンタルヘルスまで幅広く取り扱ってきました。ラオスにおけるマラリア不顕性感染の健康影響や、ミャンマー移民・難民における健康問題などのトピックで論文を発表しました。現在はアフリカ各国におけるNCD対策についてシステマティック・レビューを行っているところです。

秋山 剛 (里山・遠隔看護学分野講師)



ケニアでのグループインタビューの様子

